

[ポリエ]とは、石灰岩地域で溶食作用によってできた広い凹地、平野のことです。
秋吉台エコ・ミュージアムは佐山ポリエと呼ばれる谷あいに建っています。

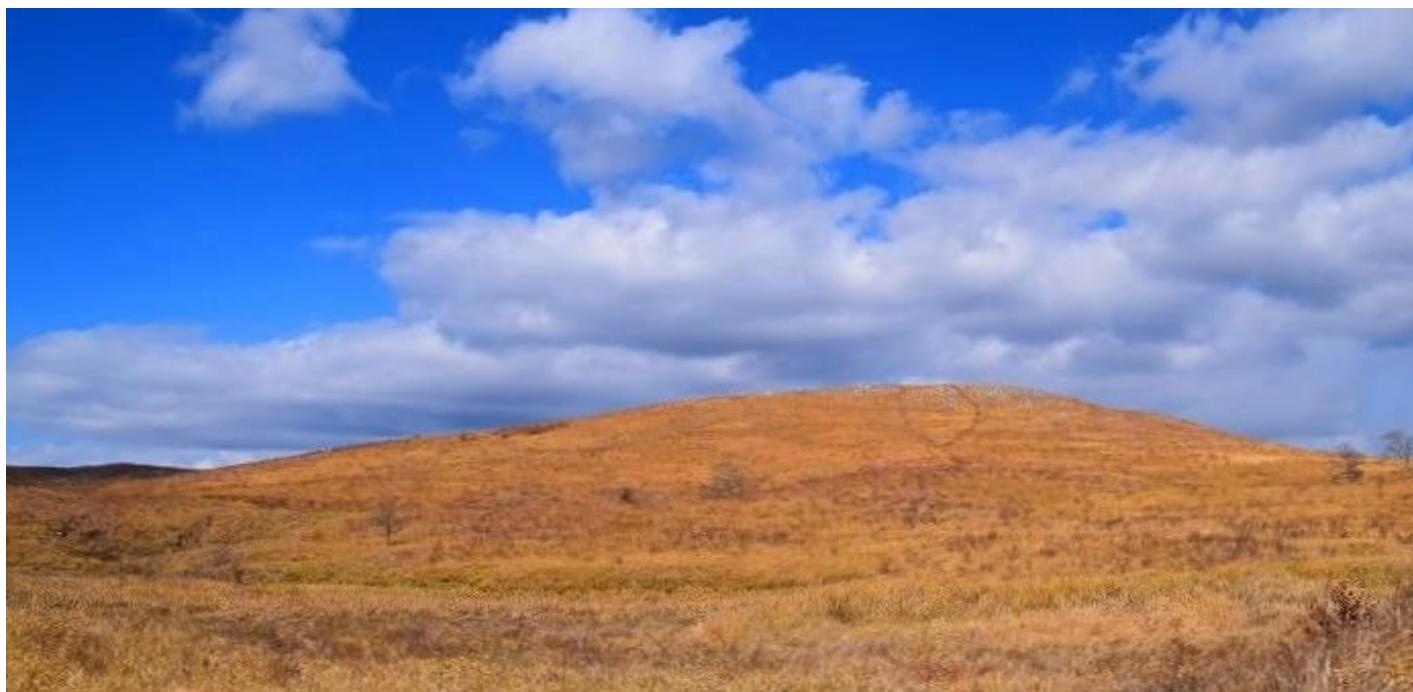
2026年1月号 №.295

〒754-0302 山口県美祢市美東町赤
TEL・FAX: 08396-2-2622
E-mail : akiyosiecomuseum@yahoo.co.jp
HP : <http://www.c-able.ne.jp/mitou-14/>

秋吉台 あとは今年の締めくくい山焼きを待つばかり

今季最強の寒波が何度かやってきました。その合間は真冬とは思えないくらい天気も良く温暖で、気温も10℃を超えることもしばしば。そして冷え込むときはマイナスの気温でかなりの寒さで寒暖の温度差は10℃超え。これも地球温暖化現象なのでしょうか。昨年3月以来、折を見て同じ地点から秋吉台の北山のようすを写真撮影してきました。それ以前の写真と見比べると、陽射し等の影響もありますが、枯れ草の色が幾分薄い気がします。草原は2月11日に実施が予定されている「秋吉台山焼き」を期待して準備万端整っています。

(写真は1月23日の北山のようす)



季節の花 寒さに耐えて春を先取り！

ヒメオドリコソウ ホトケノザによく似た花で、同じくシソ科の越年草。自生している場所も同じようなところです。お互いに似たもの同士ですが、同じところで混じって咲いているのはあまり見かけません。意識しているのでしょうか。

シロバナホトケノザ 畑や荒地などに生えるシソ科の越年草の白花種です。以前植物図鑑で見てから、いつかどこかで会いたいと思っていました。それが知人からいただいた鉢植えの中に咲いていたので、嬉しいやら驚きやら。今ではその植木鉢のまわりにも咲いています。

オオイヌノフグリ 日当たりが良ければどこにでも生えるオオバコ科の越年草。花は一日花で、晴れた日はパチッと開いていますが、天気の良くない日は開きません。薄青い小さな花が群生しているときは、どの花を撮影しようかと迷ってしまいます。



観察会「冬の昆虫教室(クワガタムシ)」(1月18日)

冬の昆虫教室(クワガタムシ)を行いました。当日朝の気温はマイナス2℃と冷え込んだものの、天気はほぼ快晴で温暖。早速エコフィールドに出て昆虫の観察。昆虫は夏だけではありません。冬でも見れます。卵で越冬するもの、サナギになって冬眠するもの、また成虫のまま葉裏などでじっとしているものなど多様です。建物の軒下の隅でナミテントウが数匹身を寄せて温め合っているような光景は、なんとも可愛いです。教室に戻ってからはクワガタムシについて学び、講師の角田先生からヒラタクワガタの幼虫がプレゼントされ、参加した子供たちは興味津々、大喜びでした。



モズの早贅(はやにえ) 冬を乗り切る保存食？？

秋吉台をよく訪れる知人からモズの早贅があったとスマホの画像を見せていただきました。トカゲがハギの小枝に刺さっているようでした。直ぐに案内していただき、実物を見ました。バッタは何度か見たことがありました。トカゲはこれで2度目です。早贅は餌となる生き物がいなくなる時期の保存食ともいわれています。といえば、いつの日にかなくなっています…。



野外ステージ撤去 なんだかさびしい…

エコフィールドの一角に設置されていた野外ステージを昨年12月に撤去しました。経年劣化による安全面を考慮したことです。かつては観察会、バンドコンサート、大正洞桜まつりや小学校などの野外活動等多種にわたって活用されました。経年劣化とはいえ、なくなってしまうとさびしい気がします。今後の跡地の活用に期待です。



2月の行事

2月28日(土) 観察会「山焼き後の台上散策とベニヤマタケの観察」



早春の風物詩「秋吉台山焼き」が終わると、間もなく黒い地面から顔を出す真っ赤なキノコ「ベニヤマタケ」を見に出かけましょう。